

(様式第10)

23 福 井 大 第 1040 号
令和 5 年 9 月 29 日

厚生労働大臣 殿

開設者名
国立大学法人福井大学
学長 上田 孝典

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号
氏名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

福井大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地
電話(0776) 61 - 3111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器科	<input checked="" type="radio"/>	2消化器科	<input checked="" type="radio"/>	3循環器科	<input checked="" type="radio"/>	4腎臓内科
<input checked="" type="radio"/>	5神経内科	<input checked="" type="radio"/>	6血液内科	<input checked="" type="radio"/>	7内分泌内科	<input checked="" type="radio"/>	8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科	<input checked="" type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input checked="" type="radio"/>	11リウマチ科	<input checked="" type="radio"/>	
診療実績							
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、リウマチ科の診療内容は内科で提供している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科の診療内容は呼吸器科で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
消化器外科、乳腺外科、内分泌外科の診療内容は外科で提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻いんこう科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	形成外科	3	病理診断科	4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	0	0	0	559	600

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	245	109	327.9
歯科医師	11	7	14.9
薬剤師	40	0	40
保健師	0	0	0
助産師	17	1	17.7
看護師	659	23	674.6
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	1	1	1.7
管理栄養士	10	0	10

職種	員数
看護補助者	47
理学療法士	15
作業療法士	5
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	14
栄養士	1
歯科技工士	1
診療放射線技師	34

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	49
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	8	
その他の技術員	10	
事務職員	159	
その他の職員	47	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	36	眼科専門医	11
外科専門医	24	耳鼻咽喉科専門医	17
精神科専門医	4	放射線科専門医	10
小児科専門医	20	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	10
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	14	救急科専門医	14
		合計	192

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大嶋 勇成) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

平成28年8月～令和3年3月 医療安全管理委員会委員
 令和3年4月～現在 病院長 (医療安全管理委員会委員長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	433.1 人	4.3 人	437.5 人
1日当たり平均外来患者数	924.5 人	27.4 人	952.0 人
1日当たり平均調剤数	入院 761.9 剤	外来 31.4 剤	793.3 剤
必要医師数			101 人
必要歯科医師数			3 人
必要薬剤師数			15 人
必要(准)看護師数			252 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	183.52 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数	10 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	335.91 ㎡	病床数	31 床	
	[移動式の場合]	台数				
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積		50.82 ㎡		
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	225 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体検査自動化システム		
細菌検査室	68 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動細菌検査システム		
病理検査室	125 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動薄切装置、自動染色装置		
病理解剖室	55 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	バイオハザード対策用L型解剖台		
研究室	4,686 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	リアルタイム定量PCR装置		
講義室	357 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	426 人
図書室	1,861 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	21 室	蔵書数	139,519 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.6	%	逆紹介率	74.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		10,371		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,585		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,668		人
	D: 初診の患者の数		14,225		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
谷内江 昭宏	金沢大学附属病院 医療安全管理部長	○	医療に係る安全管理 に関する識見を有す る者	無	1
安川 繁博	福井県医師会副会長		医療に係る安全管理 に関する識見を有す る者	無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ法律事務所		法律に関する識見を 有する者	無	1
草桶 秀夫	前福井工業大学教授		医療を受ける者の立場から意 見を述べることができる者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
福井大学医学部附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	パーキンソン病患者に対する丈夫で安全な弾性ストッキングの応用	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 パーキンソン病患者では交感神経の障害により起立性低血圧をきたし、転倒、失神をきたすことが多い。昇圧剤が処方される場合も多いがその場合臥位での高血圧をきたすことがあり、動脈硬化を促進することがあり、リスクが大きい。起床してからの弾性ストッキングの着用が望ましいが、高齢患者にとっては着脱に力が必要であり、困難である、あるいは着脱にかなり時間を要する、という問題点があった。さらに値段も4000円程度と決して安価ではなく、また断線した場合修繕もできない。そのため、我々は福井県内の企業と共同でファスナー付きで着用しやすく、耐久性に優れた弾性ストッキングを開発した。この弾性ストッキングをパーキンソン病患者に着用し、着脱のしやすさ、臥位時と立位時の血圧の変動、そして歩行のしやすさを検討した。その結果、本弾性ストッキングは着脱が容易であり、耐久性に優れ、起立性低血圧の改善が期待できることが証明された。			
医療技術名	日本における原因不明の感染症が疑われるCNS疾患患者のうちダニ媒介ウイルスTBEV(およびBorrelia burgdorferi sensu lato群の遺伝子種に属する細菌)による感染が疑われた割合	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 日本における原因不明の感染症に伴う中枢神経疾患のうち、ダニ媒介ウイルスTBEV(およびBorrelia burgdorferi sensu lato群の遺伝子種に属する細菌)による感染が疑われた割合を明らかにする。日本でのダニ媒介ウイルスによる中枢神経感染症は従来知られていたよりも頻度が高いことを示すことが可能となる。			
医療技術名	術中腹腔内温熱化学療法(HIPEC)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 大腸癌腹膜転移及び腹膜偽粘液腫を対象に治療を行っている。腹膜転移以外の切除不能因子の無い症例に対して、原発巣切除、可及的播種巣切除、リンパ節郭清等を行った後に、シスプラチン、エトポシド、マイトマイシンCを混和した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を灌流している。通常の化学療法では効果がない症例でも、有効な治療効果が得られている。			
医療技術名	PET/MRI検査におけるFDGとFESの乳癌腫瘍描出能の比較	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンをを用いたPET検査を施行し、ブドウ糖を用いたPET検査と比べ乳癌腫瘍の描出に差があるか検討する。			
医療技術名	multiple gene panel 検査による遺伝性乳癌診断と環境要因の関連性	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 家族性腫瘍に関連する胚細胞系列27遺伝子検査結果と患者の環境要因の関係を検討する。			
医療技術名	TP53遺伝子変異を有する遺伝性乳癌のサーベイランスの検討	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 予後が不良なLi-Fraumeni 症候群と診断された乳癌患者を対象に、放射線を用いない検査や治療を実施して、5年生存率が改善した臨床試験に準じた治療と検査を実施し、5年生存率の改善が得られるかを検討する。			
医療技術名	乳癌手術症例の検討	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 当院で手術治療を受けた病期0から3の乳癌を対象に、臨床病理学的因子、治療方法、再発の有無、予後を比較検討して、患者毎に個別に治療方針を立てて、乳癌の根治治療を目指す。			
医療技術名	乳癌術前のデジタルマンモグラフィーとモシンセシス画像の比較検討	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 乳癌術前精査のために、通常デジタルマンモグラフィーにトモシンセシス画像を加えることで、多発病変の描出能、乳房内拡がり診断、悪性石灰化の輝度上昇・石灰化の配列・拡がり診断に大切な追加情報が得られる症例がある。			
医療技術名	がんゲノム医療の2次的所見の活用	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 がんゲノム医療では、2次的所見の有効な活用が重要とされ、家族の早期癌発見による癌死予防が期待できる。遺伝カウンセラーと協力して生殖細胞系列遺伝子変異を確認する検査を増加させる方法を検討する。			

医療技術名	股関節疾患におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 高位脱臼や臼蓋形成不全などによる高度変形をきたす股関節疾患の治療において、ナビゲーションシステムによる支援によって、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			
医療技術名	高度変形を伴う膝関節手術におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 高度変形を伴う変形性膝関節症などの疾患の手術加療において、ナビゲーションシステムによる支援によって、より安全かつ正確な手術が可能となる。			
医療技術名	骨盤骨折の治療におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 重度外傷である骨盤骨折の観血的治療において、ナビゲーションシステムによる支援を行うことで、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			
医療技術名	三次元動作分析装置VICONを用いた脊椎脊髄疾患の歩行解析	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 頸椎・頸髄疾患を中心とした脊髄症を呈した患者の術前術後の歩行解析を行うことにより、各患者に応じたリハビリ設定や術後変化を捉えることができる。			
医療技術名	三次元動作分析装置VICONを用いた変形性関節症の歩行解析	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 変形性股関節症や変形性膝関節症の術前患者の歩行解析を行うことにより、各患者に応じたリハビリ設定や術後変化を捉えることができる。			
医療技術名	脊椎高度変形症例に対するナビゲーション支援手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 頸椎、胸椎、腰椎における高度変形症例に対しての手術時にナビゲーションを用いることで、神経損傷等の予防にもなり、また正しい変形矯正手術が可能である。			
医療技術名	側方進入椎体間固定(XLIF/OLIF)を用いた低侵襲脊椎手術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 特別な開創器を用いることにより通常法よりも低侵襲に固定術や制動術を行なうことができる。			
医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍切除後の、腫瘍用人工関節を用いた機能再建	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 悪性骨・軟部腫瘍を広範切除した後、腫瘍用人工関節を用いて機能再建を行う。良好な歩行能力の獲得が目標である。			
医療技術名	骨盤悪性腫瘍に対する広範切除と制御型人工股関節を用いた機能再建	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 骨盤悪性腫瘍の広範切除は、高度のテクニックを要する難易度の高い術式である。切除するだけでなく、制御型人工股関節を用いて機能再建を行い、日常生活に対応できる歩行能力獲得を目指す。			
医療技術名	腹壁または後腹膜悪性腫瘍に対する根治的治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 腹壁または後腹膜悪性腫瘍は、内臓臓器に腫瘍が進展していることが多いため、単一診療科での治療は困難である。また、後腹膜には腫瘍進展に対するバリアが存在しないため、最初の手術で病変部を大きく切除することが重要である。整形外科、外科、胸部外科、泌尿器科、形成外科などと密に協力して、根治的治療を行っている。			
医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍に対する、術中体外放射線照射自家骨移植を用いた患肢温存手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 骨悪性腫瘍や軟部肉腫が骨に進展している場合、腫瘍と合併切除した骨に術中放射線照射を行い、腫瘍細胞を死滅させた後、その骨を再度骨欠損の再建に用いる。			
医療技術名	末梢血単核球を用いた脂肪酸酸化能検査	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 末梢血単核球に標識脂肪酸を負荷し、脂肪酸酸化能をアシルカルニチン分析（タンデムマス分析）によって評価する。確定診断、重症度判定に活用できる。			

医療技術名	進行卵巣癌・腹膜癌に対する術中腹腔内温熱化学療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
腹腔内温熱化学療法(HIPEC)は、抗癌剤を腹腔内に直接投与し、腹腔内を加温状態とする治療法である。進行卵巣癌・腹膜癌の腹腔内癌細胞に対して高濃度の薬剤と温熱に暴露させ、癌細胞の死滅あるいは腹膜播種性腫瘍の縮小効果をあげ、腹膜播種性転移の治療や発症予防、QOL改善、生存期間延長を図るものである。			
医療技術名	覚醒下鍵穴クリッピング術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
未破裂動脈瘤クリッピング術における言語、高次脳機能の悪化を防ぐため、開頭を小さくし、かつ、クリッピング時に患者を覚醒させ高次脳機能検査を行いながらクリッピング術を行う方法。			
医療技術名	FES-PET/MRIによる乳癌リンパ節転移の診断	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
[F-18] FES PET/MRIにてエストロゲン受容体(ER)陽性乳癌の転移を診断する。			
医療技術名	FLT-PET/MRIによる骨髄不全症の鑑別	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
[F-18] FLT PET/MRIにて骨髄のTK-1活性を評価し骨髄不全症の鑑別を行う。			
医療技術名	[C-11] PiB PET/MRI によるアミロイドイメージング	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
アミロイドイメージングによるアルツハイマー病診断。			
医療技術名	FES-PET/MRIによる子宮がんの予後判定	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
[F-18] FES PET/MRIで子宮癌のER発現を評価し予後を予測する。			
医療技術名	[F-18]MK6240 PET/MRIによるタウイメージング	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
タウイメージングによるアルツハイマー病診断。			
医療技術名	[Cu-64]ATSM PET/MRIによる酸化ストレスイメージング	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
酸化ストレスイメージングによる神経変性疾患の原因解明。			
医療技術名	[C-11]K2 PET/MRIによるAMPA受容体イメージング	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
自閉症、うつ病等精神疾患のAMPA受容体解析、原因解明。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	30
取り扱い患者数の合計(人)	504

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	24
2	筋萎縮性側索硬化症	23	57	特発性拡張型心筋症	16
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	6
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	22
6	パーキンソン病	112	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	18
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	34	66	IgA腎症	18
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	26
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	35	68	黄色靱帯骨化症	28
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	6	69	後縦靱帯骨化症	88
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	36
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	52
17	多系統萎縮症	17	72	下垂体性ADH分泌異常症	9
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	28	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	1
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	9	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	41	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	9
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	50
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	26	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	41
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	50
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
34	神経線維腫症	21	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	14	90	網膜色素変性症	14
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	9
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	9	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	53
42	結節性多発動脈炎	2	97	潰瘍性大腸炎	95
43	顕微鏡的多発血管炎	10	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	2	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	4	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	85	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	60	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	89	106	クリオピリン関連周期性熱症候群	0
52	混合性結合組織病	26	107	若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	17	108	TNF受容体関連周期性熱症候群	0
54	成人スチル病	12	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
113	筋ジストロフィー	12	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	7	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性	0	175	ウィーバー症候群	0
	白質脳症				
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	1
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候	0
222	一次性ネフローゼ症候群	17	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	37

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクロームスてんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	2
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	1	331	特発性多中心性キャスルマン病	5
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	100
合計患者数(人)	1,570

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料 一般病床(7対1)	・呼吸ケアチーム加算
・特定機能病院入院基本料 精神病床(13対1)	・後発医薬品使用体制加算2
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算
・医師事務作業補助体制加算1(30対1)	・認知症ケア加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割以上)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・精神疾患診療体制加算
・看護補助加算2	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・療養環境加算	・排尿自立支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料2
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料3
・摂食障害入院医療管理加算	・看護職員処遇改善評価料68
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・重症患者初期支援充実加算	
・報告書管理体制加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・がん治療連携計画策定料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・外来排尿自立指導料
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料イ	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料ロ	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料ハ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ニ	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・医療機器安全管理料(歯科)
・糖尿病透析予防指導管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・小児運動器疾患指導管理料	・歯科治療時医療管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査
・生殖補助医療管理料1	・染色体検査の注2に規定する基準
・二次性骨折予防継続管理料1	・骨髄微小残存病変量測定
・二次性骨折予防継続管理料3	・BRCA1/2遺伝子検査
・院内トリアージ実施料	・がんゲノムプロファイリング検査
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算	・先天性代謝異常症検査
・外来放射線照射診療料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ニコチン依存症管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・検体検査管理加算(IV)	・頭部MRI撮影加算
・国際標準検査管理加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝カウンセリング加算	・外来化学療法加算1
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・無菌製剤処理料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・胎児心エコー法	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ヘッドアップティルト試験	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・神経学的検査	・がん患者リハビリテーション料
・補聴器適合検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・ロービジョン検査判断料	・療養生活継続支援加算
・コンタクトレンズ検査料1	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・小児食物アレルギー負荷検査	・医療保護入院等診療料
・内服・点滴誘発試験	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・経気管支凍結生検法	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・精密触覚機能検査	・人工腎臓
・画像診断管理加算3	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・CT撮影及びMRI撮影	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・冠動脈CT撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・心臓MRI撮影加算	・歯科技工加算1及び2
・乳房MRI撮影加算	・センチネルリンパ節加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・四肢・軀幹部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・椎間板内酵素注入療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下弁形成術
・角結膜悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下弁置換術
・角膜移植術(内皮移植加算)	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・羊膜移植術	・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・経皮的中隔心筋焼灼術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・網膜再建術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・人工中耳植込術	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・内視鏡の逆流防止粘膜切除術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・体外衝撃波胆石破碎術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・体外衝撃波膀胱石破碎術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・腹腔鏡下膀胱腫瘍摘出術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血管管理料 I
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・同種死体腎移植術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・生体腎移植術	・歯根端切除手術の注3
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・麻酔管理料(II)
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・放射線治療専任加算
・精巣内精子採取術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下仙骨腔固定術	・一回線量増加加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・LDLアフェレシス療法(糖尿病性腎症)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門 : 月 5 回 臨床検査部門 : 週 6 回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	28
	剖検率(%)	10.5

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	急性白血病の耐性克服を目指した薬理学的抗アポトーシス解除による新治療戦略の確立	山内 高弘	内科学(1)	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
2	抗アポトーシス解除による急性白血病の耐性克服戦略の確立	山内 高弘	内科学(1)	300,000	補 一般社団法人日本血液学会
3	新規バイオマーカーを用いたがん患者高尿酸血症新リスク分類の確立	山内 高弘	内科学(1)	400,000	補 公益財団法人痛風・尿酸財団
4	メタボローム解析による腫瘍崩壊症候群の新規バイオマーカーの同定	森田 美穂子	内科学(1)	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
5	肝がん細胞の進化による転移過程を司るドライバ遺伝子の同定	中本 安成	内科学(2)	5,200,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
6	獲得免疫反応が誘導する肝細胞内HBVcccDNA治療標的分子の探索	中本 安成	内科学(2)	1,500,000	補 公益財団法人大樹生命厚生財団
7	オートファジー破綻によるタウオリゴマー形成促進機構の解明	濱野 忠則	内科学(2)	1,600,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
8	アルツハイマー病におけるオートファジー破綻が来すタウオリゴマー形成促進機構の解明	濱野 忠則	内科学(2)	2,000,000	補 一般社団法人日本神経学会
9	肝がん免疫機構を制御するエイコサノイドを標的とした新規免疫治療戦略の開発	野阪 拓人	内科学(2)	1,200,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
10	HLA分子とPD-1経路を中心とした肝がん治療における免疫学的マーカーの探索	松田 秀岳	消化器内科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
11	CD4陽性キラーT細胞の走化性を誘導する新規肝がん治療法の開発	内藤 達志	消化器内科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
12	ヒト気道平滑筋細胞のサイトカイン、マトリセルラー蛋白産生におけるステロイド抵抗性	石塚 全	内科学(3)	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
13	レニン-アンジオテンシン系最終段階因子AT4の新規高感度測定法による病態解析	此下 忠志	内科学(3)	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
14	脂肪滴が洞房結節細胞のペースメーカー機能を障害するメカニズムの解析	佐藤 さつき	内分泌・代謝内科	1,200,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
15	IgG4関連肺疾患における自然リンパ球の役割とPD-1, PD-L1の関与	早稲田 優子	呼吸器内科	300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
16	肺癌の免疫治療における腫瘍免疫機能とPET/MRIを用いた画像情報の統合解析	梅田 幸寛	呼吸器内科	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
17	腎疾患における酸化ストレス評価法の開発と新規治療戦略および基盤概念の提唱	岩野 正之	腎臓病態内科学	3,300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
18	レドックス制御破綻に着目した急性腎障害の新たな発症修復メカニズムの解明	糟野 健司	腎臓病態内科学	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
19	腎臓から全身へ！新たな全身疾患「IgM陽性形質細胞関連病」の疾患概念の確立	高橋 直生	腎臓内科	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
20	腎微小環境のプロテオーム解析によるIgMPC-TINの病態解明	高橋 直生	腎臓内科	1,820,000	補 公益社団法人日本透析医会
21	再循環経路を用いた新たな持続的血液ろ過透析法の開発	西森 一久	腎臓内科	2,000,000	補 公益財団法人テルモ生命科学振興財団

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
22	腸内細菌叢偏移による既存肺癌治療の補助療法の確立	西川 翔	腎臓内科	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
23	大腸癌治療:新アプローチ:PROK1分子と分子レセプター結合による未知の機能解析	五井 孝憲	外科学(1)	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
24	臍島移植における免疫隔離膜を応用した皮下移植の検討	村上 真	消化器外科	700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
25	ヒト大動脈壁試料の解析からはじめる酸化ストレスを介した大動脈瘤の発症機序の解明	田邊 佐和香	心臓血管外科	800,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
26	前立腺癌におけるHumanized HGF SCIDマウスを用いた新規治療の開発	寺田 直樹	泌尿器科学	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
27	microの解剖学的位置に注目した前立腺肥大症の炎症の病態の研究	稲村 聡	泌尿器科	300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
28	内皮間葉移行阻害薬の探索と強皮症治療への応用	長谷川 稔	皮膚科学	1,300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
29	皮膚癌の微小環境における免疫逃避と進展に関わる細胞外基質の役割の解明	尾山 徳孝	皮膚科学	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
30	新たな魚鱗癬モデルマウスを用いた胎児治療への挑戦	知野 剛直	皮膚科学	1,500,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
31	全身性強皮症における新たな治療:抗フラクタリカイン抗体の実用に向けて	長谷川 巧	皮膚科	800,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
32	全身性強皮症における新たな治療:抗フラクタリカイン抗体の実用に向けて	長谷川 巧	皮膚科	1,000,000	補 公益財団法人日本応用酵素協会
33	重症下肢虚血の痛みにおける脳内ネットワークの解明	中井 國博	形成外科	1,200,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
34	リバーstransレーショナルアプローチによる動物の脳波による痛み評価法の確立	中江 文	形成外科	1,550,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
35	肉腫から分泌されるエクソソームによる細胞間クロストークの包括的解析	松峯 昭彦	整形外科科学	4,700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
36	膜タンパク陽性エクソソームによる脊柱靭帯骨化の疾患活動性評価法の開発と機能解析	中嶋 秀明	整形外科科学	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
37	脊柱骨化靭帯由来エクソソームによる疾患活動性評価	中嶋 秀明	整形外科科学	5,000,000	補 公益財団法人上原記念生命科学財団
38	間葉系間質細胞を用いた圧迫性脊髄症に伴う運動障害・神経障害性疼痛改善効果の解析	竹浦 直人	整形外科科学	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
39	CD146/271陽性脂肪幹細胞の関節内直接投与による変形性関節症治療効果の検討	宮崎 剛	整形外科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
40	膜タンパク陽性エクソソームによる肉腫の超早期診断法の開発と、膜タンパクの機能解析	渡邊 裕美子	整形外科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
41	脂肪由来間質細胞による脊髄損傷治療-髄腔内投与後の組織分布と運動機能解析-	高橋 藍	リハビリテーション科	1,800,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
42	緑内障視神経症における圧較差を介したミトコンドリア障害の解明	稲谷 大	眼科学	3,300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
43	流体力学解析システムによる緑内障視神経症の病態メカニズムの解明	稲谷 大	眼科学	1,600,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
44	難治性虚血性網膜疾患におけるサイトカイン依存性エピジェネティック制御機構の解明	高村 佳弘	眼科学	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
45	チューブシャント手術による眼内VEGF減少効果の解明	岩崎 健太郎	眼科学	1,400,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
46	エピジェネティック異常を標的とした糖尿病眼合併症克服への新たな治療戦略	松村 健大	眼科	800,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
47	自閉症スペクトラム障害動物モデルを用いた睡眠障害分子機構の解明	辻 隆宏	眼科	1,600,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
48	水晶体酸化ストレス応答に注目した、緑内障濾過手術後における白内障予防法の創出	有村 尚悟	眼科	1,200,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
49	流体・構造解析を難治性網膜疾患の治療へ応用する	後沢 誠	眼科	1,100,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
50	好酸球性副鼻腔炎に対するマルチオミックス解析	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	2,600,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
51	好酸球に種類はあるのか	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	2,500,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
52	好酸球性副鼻腔炎における手術治療および抗体治療患者のQOL評価と重症化予防に関する研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	7,410,000	補	国立保健医療科学院
53	甲状腺癌FNAマーカーとしてのIL-1RNの実用化と新たな分子標的治療の開発	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	1,200,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
54	中耳真珠腫におけるdectin-1の機能解析	木村 幸弘	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	1,700,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
55	ダニ抗原舌下免疫療法の応答性に関わる薬理遺伝学的バイオマーカーの開発	木戸口 正典	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	1,700,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
56	線溶系制御による好酸球性副鼻腔炎に対する新規治療法の開発	高林 哲司	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	800,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
57	好酸球性副鼻腔炎における鼻腔内短鎖脂肪酸の機能解析と病態解明の研究	意元 義政	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	800,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
58	好酸球性副鼻腔炎における脂質代謝調節機能とtype2炎症の解析	意元 義政	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	2,000,000	補	公益財団法人内藤記念 科学振興財団
59	好酸球性副鼻腔炎の鼻腔内細菌叢と短鎖脂肪酸の機能解析	意元 義政	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	2,000,000	補	公益財団法人MSD生命 科学財団
60	PET/MRIとnCounterを用いた舌癌のRadiogenomics解析	菅野 真史	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1,800,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
61	好酸球性副鼻腔炎におけるTRPV3の機能解析と治療戦略	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	900,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
62	モデルマウスを用いた花粉-食物アレルギー症候群の病態解明と治療戦略	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1,000,000	補	公益財団法人MSD生命 科学財団
63	カテキンによるユビキチン・プロテアソーム分解機構活性化を応用した口腔癌治療の検討	吉村 仁志	歯科口腔外科学	800,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
64	口腔領域の糖タンパク質をターゲットにした分子イメージング技術の確立	吉田 寿人	歯科口腔外科	1,300,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
65	小児急性リンパ性白血病維持療法中の食事制限と感染症に関する他施設共同観察研究	鈴木 孝二	小児科学	250,000	補	公益財団法人がんの 子どもを守る会
66	自家造血幹細胞移植後に効果的ながん免疫を誘導する研究	吉川 利英	小児科学	500,000	補	公益財団法人森永奉 仕会
67	食物アレルギー難治化における濾胞性ヘルパーT細胞とトリプトファン代謝の役割の解明	安富 素子	小児科	1,600,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業
68	発達障害児における睡眠障害に対する感覚介入プログラムの開発	小坂 拓也	小児科	700,000	補	日本学術振興会 科学研究費助成事業

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
69	カテーテル関連血流感染予防のための消毒法の開発	山田 健太	小児科	500,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
70	エクソソーム由来タンパク質をターゲットとした子宮肉腫治療への新しいアプローチ	吉田 好雄	産科婦人科学	4,800,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
71	卵巣局所の慢性炎症を制御する:子宮内膜症とPCOSにおける卵胞発育障害の機構解明	折坂 誠	産科婦人科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
72	Radiogenomicsに基づく進行再発子宮体癌新規治療薬とバイオマーカー開発	津吉 秀昭	産科婦人科	1,300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
73	身体的疼痛認知と他者疼痛共感からアプローチする自閉スペクトラム症の感性脳科学	小坂 浩隆	精神医学	3,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
74	青年期自閉スペクトラム症者の脳神経基盤と感覚異常	小坂 浩隆	精神医学	500,000	補 社会医療法人寿栄会
75	デフォルトモードネットワークは経頭蓋直流電気刺激の抗うつ効果を予測するか	大森 一郎	精神医学	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
76	コロナ禍における被虐待児の情動安定や自尊心向上を目指すオンラインによる音楽的介入	福元 進太郎	精神医学	300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
77	気がかり妊婦に対するオープンダイアローグの効果検証	水野 智之	神経科精神科	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
78	子どもの強迫症臨床アセスメント開発と普及プロジェクト	牧野 拓也	神経科精神科	600,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
79	特発性正常圧水頭症モデルを用いたGlymphatic systemの解析	菊田 健一郎	脳神経外科学	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
80	Hadamard-encoded ASLによる定量的脳血流評価法に関する検討	磯崎 誠	脳神経外科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
81	膠芽腫の遊走能亢進における細胞質内インボータイン α 1関連ダイナミクスの解明	山内 貴寛	脳神経外科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
82	COVID-19流行開始からウイズコロナ時代において、卓球競技者の卓球環境、運動習慣および卓球競技レベルやモチベーションがどう変化したかを調査する研究	山内 貴寛	脳神経外科	500,000	補 公益財団法人日本卓球協会
83	全身麻酔中の機能(Ees)を低侵襲で連続測定する新しい方法の確立とその有用性	重見 研司	麻酔・蘇生学	1,300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
84	敗血症性脳症のミトコンドリアタンパク機能異常を介した機序と臨床応用	細川 康二	麻酔・蘇生学	4,700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
85	敗血症性脳症のミトコンドリアタンパク機能異常を介した機序と臨床応用	細川 康二	麻酔・蘇生学	1,500,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
86	TREK-1に対する鎮痛薬の作用機序解明	松木 悠佳	麻酔科蘇生科	700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
87	エストロゲン受容体PET/MRIと腫瘍構造分析による乳癌の新規診断法の確立	辻川 哲也	放射線医学	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
88	非侵襲的腎血流評価法(ASL-MRI法)の開発とその臨床的有用性の検討	小坂 信之	放射線医学	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
89	Dual-energy CTを用いた非アルコール性脂肪肝炎の非侵襲的診断基準の確立への助成	尾崎 公美	放射線科	2,000,000	補 公益財団法人武田科学振興財団
90	新規Epo抵抗性因子の探索と分子機序の解明:赤芽球分化・増殖と脂質代謝の関連性	木村 秀樹	検査部	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
91	Deep learningを用いた脳血流SPECTIにおける投与量減量の試み	北 章延	放射線部	1,700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
92	全国の救急搬送患者の病院選定・決定までの連絡回数と現場滞在時間の関連	山田 直樹	救急部	200,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
93	SpO2波形の人工知能を介した分析による包括的肺炎診断・予後予測モデルの構築	山中 俊祐	救急部	1,200,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
94	肥満が好酸球性副鼻腔炎の難治性鼻茸形成に与える影響	吉田 加奈子	集中治療部	2,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
95	ACE2とその関連分子に着目した好酸球性副鼻腔炎の聴覚障害メカニズムの解明	吉田 加奈子	集中治療部	1,000,000	補 公益財団法人MSD生命科学財団
96	難治性疼痛に対する中枢-末梢同時電気刺激の有効性のトランスレーショナルリサーチ	松尾 英明	リハビリテーション部	400,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
97	持続的腎代替療法中のICU患者に対する神経筋電気刺激療法の効果検証	野々山 忠芳	リハビリテーション部	299,000	補 一般社団法人日本理学療法学会連合
98	食物アレルギーに対するナノ粒子を用いた新規経皮免疫療法の開発と解析	伊藤 尚弘	総合周産期母子医療センター	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
99	間葉系幹細胞からの前顆粒膜細胞の誘導-体外培養系での卵子獲得を目指して-	宮崎 有美子	総合周産期母子医療センター	700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
100	養育失調をきたす母親の治療・介入法確立のための脳画像エピゲノム解析	倉田 佐和	子どものこころ診療部	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
101	愛着障害の新たな客観的診断・支援法の開発-少子化社会を克服するための戦略-	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	7,600,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
102	ネグレクト環境が子どものこころに与える影響の客観的マーカーの開発研究	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	2,900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
103	子どもの未来を拓くマルチリートメント予防システムの妥当性検証	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	1,800,000	補 公益財団法人日本生命財団
104	機械学習を用いた神経ネットワークによるADHDのサブタイプ診断の開発	水野 賀史	子どものこころの発達研究センター	700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
105	子どものための診断アセスメントとサービス改善プロジェクト	鈴木 太	子どものこころの発達研究センター	1,600,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
106	子どもの神経発達症・摂食障害へのセルフヘルプ遠隔認知行動療法と客観的評価法の開発	濱谷 沙世	子どものこころの発達研究センター	6,600,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
107	ADHD児に対するセルフヘルプ遠隔認知行動療法と客観的評価法の開発	濱谷 沙世	子どものこころの発達研究センター	2,000,000	補 公益財団法人武田科学振興財団
108	ADHDの子どもと養育者に対する多様な認知行動技法を含む遠隔新規治療法の開発	濱谷 沙世	子どものこころの発達研究センター	1,500,000	補 公益財団法人母子健康協会
109	神経性過食症の遠隔治療基盤構築と有効性評価:多施設共同ランダム化比較試験	濱谷 沙世	子どものこころの発達研究センター	3,000,000	補 公益財団法人ロツテ財団
110	薬剤耐性(AMR)対策に向けた抗菌薬の使用動向調査システムの開発に関する研究	後藤 伸之	薬剤部	800,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
111	体圧分散マットレスの違いによる寝床内環境が及ぼす皮膚の生理的機能への影響	加納 恭子	看護部	920,000	補 公益財団法人木村看護教育振興財団
112	タウ病理に基づく認知症の層別化と分子病態の解明	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	4,900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
113	神経変性疾患治療法の開発と認知症セラノスティックスへの応用	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	1,400,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
114	新興リケッチア症・日本紅斑熱における重症化回避のための治療法確立	岩崎 博道	感染制御部	1,200,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
115	量・質混合アクションリサーチによるオンラインのつながり・支え合いの醸成手法の開発	井階 友貴	地域プライマリケア講座	1,300,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
116	地域住民の救急搬送・緊急入院を視点としたサルコペニア調査研究	山村 修	地域医療推進講座	100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
117	酸化ストレス・タウの包括的PETイメージングによるアルツハイマー病進展機序の解明	井川 正道	地域高度医療推進講座	1,100,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
118	悪性軟部腫瘍に対する術前化学療法感受性予測モデルの構築	田中 太晶	地域高度医療推進講座	900,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
119	金属による職業性喘息の新たな発症機序に関する探索的研究	門脇 麻衣子	難治性呼吸器疾患 診断・治療学講座	700,000	補 日本学術振興会 科学研究費助成事業
120	少量レナリドミド療法に再発・難治性となったMM患者に対するiLd療法の効果と安全性(W-JHS MM02)	山内 高弘	内科学(1)	42,900	委 一般社団法人九州臨床研究支援センター
121	高齢者急性骨髄性白血病の化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法に近い用量を用いる第II相臨床試験: JALSG-GML219試験	山内 高弘	内科学(1)	17,290,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
122	t(8;21)およびinv(16)陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性を評価する研究	山内 高弘	内科学(1)	130,000	委 国立大学法人長崎大学
123	臨床試験統括と検体収集	山内 高弘	内科学(1)	104,000	委 国立大学法人東海国立大学機構
124	HCV SVR後肝癌における免疫担当細胞の検討	中本 安成	内科学(2)	910,000	委 国立大学法人山梨大学
125	C型肝炎患者の粘膜関連腸内細菌叢と門脈圧亢進症の検討(インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究)	中本 安成	内科学(2)	1,040,000	委 国立大学法人大阪大学
126	ウイルス・発がんを統合的に制御する新規B型肝炎分子免疫治療の開発	中本 安成	内科学(2)	13,520,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
127	腎臓のレドックス破綻を標的とした個別化医療に必要なコンパニオン診断薬の開発	糟野 健司	腎臓病態内科学	2,040,579	委 国立大学法人京都大学
128	慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討 [Randomized trial for Evaluation in Secondary Prevention Efficacy of Combination Therapy - Statin and Eicosapentaenoic Acid (RESPECT-EPA)]	宇随 弘泰	循環器内科学	1,740,000	委 一般財団法人生産開発科学研究所
129	実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステントとエベロリムス溶出性ステントの有効性及び安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験:長期追跡試験【NOBORI Biolimus-Eluting versus XIENCE/PROMUS Everolimus-eluting Stent Trial:Extended Follow-up】	宇随 弘泰	循環器内科学	308,000	委 一般財団法人生産開発科学研究所
130	前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究	多賀 峰克	泌尿器科	50,000	委 特定非営利活動法人J-Cap研究会
131	手術後の痛みに対する鎮痛薬の薬効を客観的にモニタリングする方法の開発	中江 文	形成外科	4,550,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
132	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	松峯 昭彦	整形外科	650,000	委 国立大学法人大分大学
133	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	松峯 昭彦	整形外科	390,000	委 国立大学法人岡山大学
134	MAGE-A4抗原を発現する切除不能進行・再発腫瘍に対するCAR-T細胞療法の医師主導第I相試験	松峯 昭彦	整形外科	520,000	委 国立大学法人三重大学
135	通年性ダニアレルギー性鼻炎の疫学、診断、治療に関するエビデンス構築	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	13,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
136	難治性アレルギー性鼻炎の免疫担当細胞の同定と新規治療法の開発	木戸口 正典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	13,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
137	初発時慢性期および移行期小児慢性脊髄性白血病に対する第2世代チロシナーゼ阻害薬の適正使用に関する研究開発	吉川 利英	小児科学	754,000	委 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター
138	子宮頸がん検診未受診者に対する自己採取HPV検査による受診率向上効果の検証	吉田 好雄	産科婦人科学	2,788,000	委 福井県
139	自己採取HPV検査の精度の検証と至適運用をめざした日本産婦人科医会・がん部会の臨床研究	黒川 哲司	産科婦人科学	273,559	委 公益社団法人日本産婦人科医会
140	プロトコル作成、倫理承認の取得、質問項目等作成	小坂 浩隆	精神医学	260,000	委 公立大学法人名古屋市立大学
141	コミュニケーション双方向支援の神経多様性における検証	小坂 浩隆	精神医学	1,755,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構
142	循環制御用ロボット麻酔システムの開発	重見 研司	麻酔・蘇生学	28,871,186	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
143	鼻および副鼻腔疾患のAIによるCT画像診断支援システム開発	坂下 雅文	医学研究支援センター	5,878,000	委 国立大学法人東海国立大学機構
144	アトピー性皮膚炎をモデルとした次世代リパーstransレーショナル研究基盤構築に向けた研究	坂下 雅文	医学研究支援センター	260,000	委 京都府公立大学法人

計 144 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」を選択し、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Hamano T, Nagata M, Matsubara R, 他	内科学 (2)	Effectiveness of a self-reporting yes/no survey for dementia screening-trial in Fukui, Japan	Front Aging Neurosci. 2023 Jan;14:1029614	Original Article
2	Nosaka T, Matsuda H, Sugata R, 他	内科学 (2)	Longer Survival and Preserved Liver Function after Proton Beam Therapy for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Curr Oncol. 2023 Mar;30(4):3915-3926	Original Article
3	Yamaguchi T, Ikawa M, Enomoto S, 他	脳神経内科	Arterial spin labeling imaging for the detection of cerebral blood flow asymmetry in patients with corticobasal syndrome	Neuroradiology. 2022 Sep;64(9):1829-1837	Original Article
4	Kitazaki Y, Ikawa M, Yamaguchi T, 他	脳神経内科	Regional cortical hypoperfusion and atrophy correlate with striatal dopaminergic loss in Parkinson's disease: a study using arterial spin labeling MR perfusion	Neuroradiology. 2023 Mar;65(3):569-577	Original Article
5	Tsuji A, Hiramatsu K, Namikawa S, 他	消化器内科	A rare case of eosinophilic gastritis induced by nivolumab therapy for metastatic melanoma	Clin J Gastroenterol. 2022 Oct;15(5):876-880	Case report
6	Yamashita J, Nosaka T, Takahashi K, 他	消化器内科	Cholesterol crystal embolism in multiple organs after transarterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma: An autopsy case report	Medicine (Baltimore). 2022 Sep (オンライン)	Case report
7	Takahashi K, Ofuji K, Nosaka T, 他	消化器内科	Elderly onset congenital hepatic fibrosis with portal hypertension diagnosed after recurrent cholangitis: a case report	Clin J Gastroenterol. 2022 Jun;15(3):611-616	Case report
8	Naito T, Nosaka T, Takahashi K, 他	消化器内科	Successful early diagnosis of monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma manifesting as chronic diarrhea and hypokalemia using video capsule endoscopy and double-balloon enteroscopy	Clin J Gastroenterol. 2022 Oct;15(5):913-919	Case report
9	Ishizuka T, Menzies-Gow A, Okada H, 他	内科学 (3)	Efficacy and safety of tezepelumab in patients recruited in Japan who participated in the phase 3 NAVIGATOR study	Allergol Int. 2023 Jan;72(1):82-88	Original Article
10	Yamada M, Suzuki J, Sato S, 他	内分泌・代謝内科	Hormone-sensitive lipase protects adipose triglyceride lipase-deficient mice from lethal lipotoxic cardiomyopathy	J Lipid Res. 2022 May;63(5):100194	Original Article
11	Kasuno K, Yodoi J, Iwano M	腎臓病態内科学	Urinary Thioredoxin as a Biomarker of Renal Redox Dysregulation and a Companion Diagnostic to Identify Responders to Redox-Modulating Therapeutics	Antioxid Redox Signal. 2022 May;36(13-15):1051-1065	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
12	Nishikawa S, Takahashi N, Nishikawa Y, 他	腎臓内科	Fanconi syndrome in an elderly patient with membranous nephropathy during treatment with the immunosuppressant mizoribine	CEN Case Rep. 2023 Feb;12(1):32-38	Case report
13	Shimamoto Y, Kasuno K, Iwano M	腎臓内科	Intrarenal corpuscular multinucleated giant cells in ANCA-associated vasculitis	Clin Exp Nephrol. 2023 Feb;27(2):197-199	Original Article
14	Hasegawa K, Miyazaki S, Okada A, 他	循環器内科学	Arrhythmogenic superior vena cava manifesting after a right-sided pneumonectomy and mediastinal lymph node dissection	J Arrhythm. 2022 Dec;39(1):84-87	Original Article
15	Aoyama D, Uzui H, Sekihara T, 他	循環器内科	Declines in serum uric acid level after catheter ablation of atrial fibrillation	Heart Vessels. 2022 Dec;37(12): 2049-2058	Original Article
16	Sekihara T, Miyazaki S, Nagano M, 他	循環器内科	Evaluation of interatrial conduction pattern after pulmonary vein isolation using an ultrahigh-resolution electroanatomical mapping system	Heart Vessels. 2022 Aug;37(8):1425-1435	Original Article
17	Sekihara T, Miyazaki S, Aoyama D, 他	循環器内科	Evaluation of cryoballoon pulmonary vein isolation lesions during the acute and chronic phases using a high-resolution mapping system	J Interv Card Electrophysiol. 2022 Oct;65(1): 123-131	Original Article
18	Sekihara T, Eguchi T, Aoyama D, 他	循環器内科	Focal post-Maze atrial tachycardia mimicking macroreentrant tachycardia around the Maze lesion diagnosed using ultra-high-resolution mapping	J Arrhythm. 2022 Jul :38(4):650-652	Original Article
19	Sekihara T, Aoyama D, Eguchi T, 他	循環器内科	Pseudo superior vena cava entrance block during sinus rhythm uncovered by continuous atrial pacing	J Arrhythm. 2022 May;38(4):653-655	Original Article
20	Sawai K, Goi T, Sakamoto S, 他	外科学 (1)	Oxidative Stress as a Biomarker for Predicting the Prognosis of Patients with Colorectal Cancer	Oncology. 2022 Dec;100(11):612-619	Original Article
21	Sawai K, Goi T, Tagai N, 他	外科学 (1)	Stage IV anal canal squamous cell carcinoma with long-term survival: a case report	Surg Case Rep. 2022 Jun;8(1):119	Case report
22	Koneri K, Goi T, Shimada M, 他	消化器外科	Boari Flap Urinary Tract Reconstruction for Rectosigmoid Cancer with Ureteral Invasion: Report of a Case	Int Surg. 2023 Jan;107(1):43-48	Case report
23	Sasaki M, Sakon K, Tanaka K, 他	外科学 (2)	Case of a lung collision tumor consisting of squamous cell carcinoma of the lung and diffuse large B-cell lymphoma	Clin Case Rep. 2022 Jul (オンライン)	Case report
24	Tanabe S, Yano K, Mizunaga T, 他	心臓血管外科	Pulmonary valve myxoma requiring pulmonary valve replacement: a case report	Surg Case Rep. 2022 Apr;8(1):68	Case report
25	Yano K, Sakon K, Takamori A, 他	心臓血管外科	Treatment of anomalous arterial supply to the basal segment of left lung with aortic stent graft	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2022 Jul;8(3):350-352	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
26	Terada N, Sawada A, Kawanishi H, 他	泌尿器科学	The efficacy of sequential therapy with docetaxel and cabazitaxel for castration-resistant prostate cancer: A retrospective multi-institutional study in Japan	Int J Urol. 2023 Feb;30(2):227-234	Original Article
27	Kobayashi H, Zha X, Nagase K, 他	泌尿器科学	Phosphodiesterase 5 inhibitor suppresses prostate weight increase in type 2 diabetic rats	Life Sci. 2022 Jun;298:120504	Original Article
28	Oyama N, Baba N, Ido H, 他	皮膚科学	A case of widespread unilateral subcutaneous sarcoidosis with ocular and pulmonary involvements with seropositivity for anti-double strand-DNA antibody and rheumatoid factor: A revisit of gap between humoral autoimmune abnormalities and clinical findings	J Cutan Immunol Allergy. 2022 May;5(6):227-228	Case report
29	Oyama N, Hasegawa M	皮膚科学	Lichen Sclerosus: A Current Landscape of Autoimmune and Genetic Interplay	Diagnostics (Basel). 2022 Dec;12(12):3070	Review
30	Baba N, Kato H, Nakamura M, 他	皮膚科学	Narrower clinical margin in high or very high-risk squamous cell carcinoma: a retrospective, multicenter study of 1,000 patients	J Dtsch Dermatol Ges. 2022 Aug;20(8):1088-1099	Original Article
31	Uesugi-Uchida S, Oyama N, Yoshida Y, 他	皮膚科	Efficacy of topical adapalene monotherapy for symptomatic relief in a long-standing vulvar syringoma: A case report and literature review with treatment update	J Cutan Immunol Allergy. 2022 Jun;5(3):97-99	Case report
32	Uesugi-Uchida S, Fujisaki M, Sekine S, 他	皮膚科	Non-episodic angioedema with eosinophilia developing after influenza vaccination: A case report	J Dermatol. 2023 Mar (オンライン)	Case report
33	Fujisaki M, Hasegawa T, Oyama N, 他	皮膚科	Erythema annulare centrifugum in the setting of COVID-19 infection: A case report and literature review	J Cutan Immunol Allergy. 2022 Jul;6(2):57-58	Case report
34	Hasegawa T, Oyama N, Kasamatsu H, 他	皮膚科	Intertriginous erythema associated with enfortumab vedotin, a nectin-4-targeting antibody-drug conjugate, in a case with metastatic urothelial cancer: Immunohistochemical evidence for molecular-targeted eruption	J Dermatol. 2022 Dec (オンライン)	Case report
35	Iino S, Baba N, Hasegawa T, 他	皮膚科	Retrospective evaluation of the utility of two-step surgery for facial basal cell carcinoma and squamous cell carcinoma	Front Surg. 2022 Sep;9:915731	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
36	Sekine S, Iino S, Nishimura K, 他	皮膚科	A case of refractory hypertrophic lupus erythematosus on the face whose irreversible skin fibrosis was treated by local full-thickness skin graft under disease control with a combined use of topical and systemic immunosuppressants, and hydroxychloroquine	J Cutan Immunol Allergy. 2022 Aug;6(2):63-65	Case report
37	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, 他	整形外科	Prognosis after Palliative Surgery for Patients with Spinal Metastasis: Comparison of Predicted and Actual Survival	Cancers Basel. 2022 Aug;14(16):3868	Original Article
38	Nakajima H, Honjoh K, Watanabe S, 他	整形外科	Prognostic Factors and Optimal Surgical Management for Lumbar Spinal Canal Stenosis in Patients with Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis	J Clin Med. 2022 Jul;11(14):4133	Original Article
39	Nakajima H, Yokogawa N, Sasagawa T, 他	整形外科	Prognostic Factors for Cervical Spinal Cord Injury without Major Bone Injury in Elderly Patients	J Neurotrauma. 2022 May;39(9-10):658-666	Original Article
40	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, 他	整形外科	Symptom-based characteristics and treatment efficacy of neuropathic pain related to spinal disorders	J Orthop Sci. 2022 Nov;27(6):1222-1227	Original Article
41	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, 他	整形外科	Symptom-based pharmacotherapy for neuropathic pain related to spinal disorders: results from a patient-based assessment	Sci Rep. 2022 May;12(1):7192	Original Article
42	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, 他	整形外科	Prognostic Factors for the Postoperative Improvement of Spinal Cord-Related Neuropathic Pain in Patients with Degenerative Cervical Myelopathy	Spine Surg Relat Res. 2022 Apr;6(6):610-616	Original Article
43	Nakajima H, Matsuo H, Naruse H, 他	整形外科	Clinical impact of short limited lumbar fusion for adult spinal deformity with postural and radiological abnormalities	Sci Rep. 2022 Nov;12(1):19439	Original Article
44	Yamagishi A, Nakajima H, Kokubo Y, 他	整形外科	Polarization of infiltrating macrophages in the outer annulus fibrosus layer associated with the process of intervertebral disc degeneration and neural ingrowth in the human cervical spine	Spine J. 2022 May;22(5):877-886	Original Article
45	Kitade M, Nakajima H, TsujiKawa T, 他	整形外科	Evaluation of (R)-[11C]PK11195 PET/MRI for Spinal Cord-Related Neuropathic Pain in Patients with Cervical Spinal Disorders	J Clin Med. 2022 Dec;12(1):116	Original Article
46	Inatani M, Kohama I, Chu A	眼科学	iStent Trabecular Micro-bypass Stent Implantation Combined with Phacoemulsification for Open-Angle Glaucoma: A 2-Year Post-marketing Surveillance Study in Japan	Adv Ther. 2022 Sep;39(9):4076-4093	Original Article
47	Takamura Y, Yamada Y, Inatani M	眼科学	Role of Microaneurysms in the Pathogenesis and Therapy of Diabetic Macular Edema: A Descriptive Review	Medicina (Kaunas). 2023 Feb;59(3):435	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
48	Iwasaki K, Kojima S, Wajima R, 他	眼科学	Comparing Surgical Outcomes in Neovascular Glaucoma between Tube and Trabeculectomy: A Multicenter Study	Ophthalmol Glaucoma. 2022 Nov-Dec;5(6):672-680	Original Article
49	Iwasaki K, Arimura S, Orii Y, 他	眼科学	Posture-Induced Intraocular Pressure Changes after iStent Inject W Combined with Phacoemulsification in Open Angle Glaucoma Patients	Medicina (Kaunas) . 2023 Feb;59(3):423	Original Article
50	Matsumura T, Yamaguchi T, Suzuki T, 他	眼科	Changes in corneal higher-order aberrations during treatment for infectious keratitis	Sci Rep. 2023 Jan;13(1):848	Original Article
51	Matsumura T, Yamaguchi T, Higa K, 他	眼科	Reply to Comment on: Long-Term Outcome After Superficial Keratectomy of the Abnormal Epithelium for Partial Limbal Stem Cell Deficiency	Am J of Ophthalmology. 2022 Jun;238:204-205	Original Article
52	Tsuji T, Murase T, Konishi Y, 他	眼科	Optic Nerve Injury Enhanced Mitochondrial Fission and Increased Mitochondrial Density without Altering the Uniform Mitochondrial Distribution in the Unmyelinated Axons of Retinal Ganglion Cells in a Mouse Model	Int J Mol Sci. 2023 Feb;24(5):4356	Original Article
53	Yamada Y, Takamura Y, Matsumura T, 他	眼科	Regional Variety of Reduction in Retinal Thickness of Diabetic Macular Edema after Anti-VEGF Treatment	Medicina (Kaunas) . 2022 Jul;58(7):933	Original Article
54	Orii Y, Kunikane E, Yamada Y, 他	眼科	Brimonidine and timolol concentrations in the human vitreous and aqueous humors after topical instillation of a 0.1% brimonidine tartrate and 0.5% timolol fixed-combination ophthalmic solution: An interventional study	PLoS One. 2022 Dec (オンライン)	Original Article
55	Oshima H, Takamura Y, Hirano T, 他	眼科	Glycemic Control after Initiation of Anti-VEGF Treatment for Diabetic Macular Edema	J Clin Med. 2022 Aug;11(16):4659	Original Article
56	Komori R, Takamura Y, Yamada Y, 他	眼科	Impact of the COVID-19 Pandemic on Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy for Diabetic Macular Edema in Japan	J Clin Med. 2022 Nov;11(22):6794	Original Article
57	Suzuki M, Suzuki Y, Komori R, 他	眼科	Aqueous column changes in the episcleral veins after the instillation of ripasudil versus latanoprost: a randomized, double-blind, crossover clinical trial	Sci Rep. 2022 Sep;12(1):15255	Original Article
58	Narita N, Ito Y, Saito K, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Defibrinogenation therapy with batroxobin for idiopathic pediatric sudden sensorineural hearing loss: Report of three cases	Otolaryngology Case Reports. 2022 Apr;23:100431	Case report
59	Kidoguchi M, Morii W, Noguchi E, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	HLA-DPB1*05:01 genotype is associated with poor response to sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis	Allergy. 2022 May;77(5):1633-1635	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
60	Maegawa A, Murata K, Kuroda K, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Cellular Profiles of Prodynorphin and Preproenkephalin mRNA-Expressing Neurons in the Anterior Olfactory Tubercle of Mice	Front Neural Circuits. 2022 Jul;16:908964	Original Article
61	Miyamoto D, Takeuchi K, Chihara K, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Protein tyrosine kinase Abl promotes hepatitis C virus particle assembly via interaction with viral substrate activator NS5A	J Biol Chem . 2022 Apr;298(4):101804	Original Article
62	Akutsu J, Iwahashi T, Nariai Y	歯科口腔外科学	Fenestration is a logical and effective treatment for a large primordial cyst with cholesterol granuloma: a case report	J Int Med Res. 2022 Jun;50(6):3000605221104185	Case report
63	Matsuda S, Yamaguchi T, Mikami S, 他	歯科口腔外科	Can malocclusion provide clinicians with information for differential diagnosis of temporomandibular joint diseases?: A review	Medicine (Baltimore). 2022 Aug (オンライン)	Review
64	Yoshida H, Makino A, Yamaguchi A, 他	歯科口腔外科	Droplets Adhesion to Surgical Masks during Standard Oral Surgery	Jpn J Infect Dis. 2023 Jan;76(1):84-86	Original Article
65	Matsuda S, Kawachi I, Fujita R, 他	歯科口腔外科	Effect of the COVID-19 pandemic on the oral health and nutritional status of Japanese older adults who underwent total hip or knee arthroplasty: A 3-year single-institution retrospective cohort study	Medicine (Baltimore). 2022 Nov (オンライン)	Original Article
66	Matsuda S, Itoi H, Ryoike T, 他	歯科口腔外科	How should clinicians assess acute dental pain?: A review	Medicine (Baltimore). 2022 Nov (オンライン)	Review
67	Matsuda S, Yoshimura H, Kawachi I	歯科口腔外科	Impact of natural disaster on oral health:A scoping review	Medicine (Baltimore). 2023 Feb (オンライン)	Review
68	Matsuda S, Yoshimura H	歯科口腔外科	Impact of oral health management on mental health and psychological disease: a scoping review	J Int Med Res. 2023 Jan;51(1):3000605221147186	Review
69	Matsuda S, Yoshimura H	歯科口腔外科	Possibilities and challenges in digital personal identification using teledentistry based on integration of telecommunication and dental information: a narrative review	J Int Med Res. 2022 Apr;50(4):3000605221097370	Review
70	Ariga Y, Low S, Hoshino H, 他	小児科	Expression and Clinical Significance of Spi-B in B-cell Acute Lymphoblastic Leukemia	J Histochem Cytochem. 2022 Oct;70(10):683-694	Original Article
71	Yasutomi M, Nitta S, Hayashi T, 他	小児科	Ulcerative colitis developed after remission of eosinophilic pneumonia	Pediatr Int. 2023 Jan (オンライン)	Case report
72	Sugihara K, Yuasa M, Isozaki Y, 他	小児科	Severity estimation of very-long-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency via 13C-fatty acid loading test	Pediatr Res. 2022 Nov;92(5):1391-1399	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
73	Onuma T, Asare-Werehene M, Yoshida Y, 他	産科婦人科学	Exosomal Plasma Gelsolin Is an Immunosuppressive Mediator in the Ovarian Tumor Microenvironment and a Determinant of Chemoresistance	Cells. 2022 Oct;11(20):3305	Review
74	Kikuta K, Isozaki M, Higashino Y, 他	脳神経外科学	Functional Outcomes of Microsurgical Resection for Cavernous Malformations of the Brainstem	Adv Tech Stand Neurosurg. 2022 Aug;44(2):121-132	Original Article
75	Higashino Y, Isozaki M, Tsunetoshi K, 他	脳神経外科学	Factors affecting global neurocognitive status and frontal executive functions in the early stage after surgical clipping of unruptured anterior circulation aneurysms with respect to keyhole clipping and conventional clipping	Acta Neurochir(Wien). 2022 2 Aug;164(8): 2219-2228	Original Article
76	Yamada S, Kawajiri S, Arishma H, 他	脳神経外科学	Prediction of Post-operative Long-Term Outcome of the Motor Function by Multimodal Intraoperative Neuromonitoring With Transcranial Motor-Evoked Potential and Spinal Cord-Evoked Potential After Microsurgical Resection for Spinal Cord Tumors	Front Surg. 2022 May;9:883832	Original Article
77	Hagihara R, Isozaki M, Kidoguchi M, 他	脳神経外科	Cerebrovascular Treatment with Superselective Balloon Test Occlusion for Multiple Cerebral Aneurysms Associated with Middle Cerebral Artery Anomaly: A Case Report	NMC case report J. 2022 Sep;9: 319-322	Case report
78	Hagihara R, Arishima H, Yamauchi T, 他	脳神経外科	Ewing sarcoma with very late metastasis in the skull: a case report	J Med Case Rep. 2022 Nov;16(1):419	Case report
79	Hosokawa K, Tanaka K, Ishihara K, 他	麻酔・蘇生学	The association between initial calculated driving pressure at the induction of general anesthesia and composite postoperative oxygen support	BMC Anesthesiol. 2022 Dec;22(1):411	Original Article
80	Tsujikawa T, Makino A, Oikawa H, 他	放射線医学	Assessing the ADC of Bone-marrow on Whole-body MR Images in Relation to the Fat-suppression Method and Fat Content	Magn Reson Med Sci. 2022 Jul;21(3):407-413	Original Article
81	Tsujikawa T, Takahashi M, Maeda H, 他	放射線医学	Metastatic invasive lobular breast cancer presenting as proctitis plastica of the colon: Tumour characterization using [18 F]FES PET/MRI	J Med Imaging Radiat Oncol. 2022 Aug;66(5):634-636	Case report
82	Takata K, Kimura H, Ishida S, 他	放射線科	Assessment of Arterial Transit Time and Cerebrovascular Reactivity in Moyamoya Disease by Simultaneous PET/MRI	Diagnostics (Basel). 2023 Feb;13(4):756	Original Article
83	Ozaki K, Ishida S, Higuchi S, 他	放射線科	Diagnostic performance of abbreviated gadoteric acid-enhanced magnetic resonance protocols with contrast-enhanced computed tomography for detection of colorectal liver metastases	World J Radiol. 2022 Oct;14(10):352-366	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
84	Kawamura Y, Hosokawa K, Muneishi H	集中治療部	Surgical removal of an intracardiac indwelling outer cannula	Open J Clin Med Case Rep. 2022 Dec;8 (25) :1-2	Case report
85	Kato E, Tsutsumiuchi T, Muramoto A, 他	集中治療部	The Percentage of PNA α -Expressing Vessels is Correlated with Disease Severity in Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis	Am J Rhinol Allergy. 2023 Jan;37 (1) :43-50	Original Article
86	Tsukinowa Y, Isozaki M, Kikuta K	集中治療部	Short jump vein graft for the treatment of symptomatic Riles type 1A occlusion of common carotid artery: case report and review of literature	Acta Neurochir (Wien). 2023 Mar;165 (3) :637-642	Case report
87	Hosono N, Yamauchi T	輸血部	[Ⅲ. Bcl-2 Inhibitor in AML Therapy]	Gan To Kagaku Ryoho. 2022 May;49 (5) :545-548	Case report
88	Nonoyama T, Shigemitsu H, Kubota M, 他	リハビリテーション部	Neuromuscular electrical stimulation in the intensive care unit prevents muscle atrophy in critically ill older patients: A retrospective cohort study	Medicine (Baltimore). 2022 Aug (オンライン)	Original Article
89	Matsuo H, Kubota M, Matsumura M, 他	リハビリテーション部	Center of pressure velocities in patients with body lateropulsion: three case report series of Wallenberg's syndrome	Physiother Theory Pract. 2022 Nov;38 (13) :3264-3272	Case report
90	Watanabe H, Kojima S, Nagasaka K, 他	リハビリテーション部	Gray Matter Volume Variability in Young Healthy Adults: Influence of Gender Difference and Brain-Derived Neurotrophic Factor Genotype	Cereb Cortex. 2022 Jun;32 (12) :2635-2643	Original Article
91	Kitade I, Kawabata A, Yonemura Y, 他	リハビリテーション部	Imaging and Clinical Findings after Auto-mobilization in a Cervical Disk Herniation Patient with Prolonged Neck Pain: A 7-year Follow-up Case Report	Prog Rehabil Med. 2022 Dec;7:20220062	Case report
92	Kitade I, Nakajima H, Nakagawa H, 他	リハビリテーション部	Improvement After Surgery in a Patient With Prolonged Tetraplegia Due to Cervical Spinal Cord Injury Without Bone Injury	Cureus. 2023 Jan (オンライン)	Case report
93	Matsuzaki H, Fukunaga K	子どものこころの発達研究センター	Environmental risk factors in autism spectrum disorder	Front Psychiatry. 2022 Aug;13:978489	Others
94	Mizuno Y, Cai W, Supekar K, 他	子どものこころの発達研究センター	Methylphenidate Enhances Spontaneous Fluctuations in Reward and Cognitive Control Networks in Children With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder	Biol Psychiatry Cogn Neurosci Neuroimaging. 2023 Mar;8 (3) :271-280	Original Article
95	Mizuno Y, Cai W, Supekar K, 他	子どものこころの発達研究センター	Methylphenidate remediates aberrant brain network dynamics in children with attention-deficit/hyperactivity disorder: A randomized controlled trial	Neuroimage. 2022 Aug;257:119332	Original Article
96	Hamatani S, Matsumoto K, Ishibashi T, 他	子どものこころの発達研究センター	Development of a culturally adaptable internet-based cognitive behavioral therapy for Japanese women with bulimia nervosa	Front Psychiatry. 2022 Aug;13:942936	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
97	Hamatani S, Hiraoka D, Makita K, 他	子どものこころの発達研究センター	Longitudinal impact of COVID-19 pandemic on mental health of children in the ABCD study cohort	Sci Rep. 2022 Nov;12(1):19601	Original Article
98	Tsukamoto H, Higashi T, Kodawara T, 他	薬剤部	A longitudinal study of Candida bloodstream infections in a Japanese university hospital: species distribution, drug susceptibility, clinical features, and mortality predictors	Eur J Clin Microbiol Infect Dis. 2022 Nov;41(11):1315-1325	Original Article
99	Sakashita M, Takabayashi T, Imoto Y, 他	医学研究支援センター	Retinoic acid promotes fibrinolysis and may regulate polyp formation	J Allergy Clin Immunol. 2022 Nov;150(5):1114-1124	Original Article
100	Okazawa H, Ikawa M, Tsujikawa T, 他	高エネルギー医学研究センター	Cerebral Oxidative Stress in Early Alzheimer's Disease Evaluated by 64Cu-ATSM PET/MRI: A Preliminary Study	Antioxidants (Basel). 2022 May;11(5):1022	Original Article
101	Okazawa H	高エネルギー医学研究センター	ER Imaging for Estrogen-Related Tumors Is Bothersome but Useful	J Nucl Med. 2022 May;63(5):700-701	Review
102	Onishi H, Yamamura O, Sakamaki I, 他	地域医療推進講座	Can the Brinkman Index Predict the Need for Treatment in Patients With COVID-19?	Asia Pac J Public Health Med. 2022 Sep;34(6-7):692-694	Original Article
103	Onishi H, Yamamura O, Tsubouchi H, 他	地域医療推進講座	Long-Term Prevalence of Disaster-Related Deep Vein Thrombosis in Minamiaso Village After the 2016 Kumamoto Earthquakes: A Prospective Cross-Sectional Analysis	Disaster Med Public Health Prep. 2022 Oct;16(5):2036-2043	Original Article
104	Onishi H, Mizukami Y, Tsubouchi H, 他	地域医療推進講座	Prevalence and Risk Factors of Frailty Using Fried Frailty Phenotype Questionnaire among Older People in a Depopulated Area :A Cross-Sectional Study	Int J Gerontol. 2022 Jul;16(3):231-236	Original Article
105	Onishi H, Yamamura O, Sakamaki I, 他	地域医療推進講座	Qualitative antibody responses, changes in inflammatory biomarker levels, and adverse reactions following vaccination with the BNT162b2 COVID-19 mRNA vaccine	Int J Anal Bio Sci. 2022 Sep;10(3):73-80	Original Article

計 105 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 「福井大学医学系研究実施の手順書」 (倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ、倫理審査申請書類の作成について、倫理審査の申請から委員会審査、承認まで、研究計画の実施状況報告及び終了(中止)報告について、重篤な有害事象及び不具合への対応等)	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 「福井大学における臨床研究に係る利益相反管理規程」 (委員会の設置、組織、申告書の提出等、審査の方法、審査結果の報告、指導等)	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 18 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 ① 被験者の募集、組み込みと参加継続 ② 臨床研究及び医学教育における利益相反の課題 ③ 臨床研究を実施する上で大切なこと～データマネジメントの視点から～	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各領域（診療科）において、専門研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	127 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山内 高弘	血液・腫瘍内科	教授	34年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	37年	
中本 安成	消化器内科	教授	34年	
濱野 忠則	脳神経内科	准教授	33年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	39年	
石塚 全	内分泌・代謝内科	教授	39年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	36年	
茅田 浩	循環器内科	教授	37年	
五井 孝憲	消化器外科	教授	34年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	准教授	34年	
福井 伸哉	心臓血管外科	教授	25年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	35年	
寺田 直樹	泌尿器科	教授	25年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	32年	
中井 國博	形成外科	准教授	28年	
松峯 昭彦	整形外科	教授	37年	
松峯 昭彦	リハビリテーション科	教授	37年	
稲谷 大	眼科	教授	28年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	37年	
吉村 仁志	歯科口腔外科	教授	24年	
大嶋 勇成	小児科	教授	38年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	35年	
小坂 浩隆	神経科精神科	教授	25年	
菊田 健一郎	脳神経外科	教授	32年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	39年	
辻川 哲也	放射線科	教授	24年	
林 寛之	救急科	教授	37年	
今村 好章	病理診断科	准教授	37年	
木村 秀樹	検査部	准教授	39年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【放射線部門】

・研修の主な内容

MRI検査を安全に実施するために必要な知識及び検査時に注意する事項

・研修の期間・実施回数

5月12日、5月19日

・研修の参加人数

新任看護師 62名、新任医師 19名

【リハビリテーション部門】

・研修の主な内容

ICU新人（異動者含む）看護師に対してICUでの理学療法を講義

・研修の期間・実施回数

5月1日、5月2日

・研修の参加人数

看護師 5名

・研修の主な内容

2年目研修でのICUローテーション看護師に対してICUでの理学療法を講義

・研修の期間・実施回数

5月8日～7月18日の期間中 11回

・研修の参加人数

看護師 各5名

【臨床工学部門】

・研修の主な内容

医療機器の安全使用・管理に関する研修

・研修の期間・実施回数

令和4年度中 67回

・研修の参加人数

コメディカル、看護師等 延べ3,776名

【看護部】

- ・研修の主な内容
看護技術トレーニング及びシミュレーショントレーニング
- ・研修の期間・実施回数
4月6日～12月6日の期間中 26回
- ・研修の参加人数
新規採用看護師 56名/回

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【臨床検査部門】

- ・研修の主な内容
検査部、輸血部、病理部で取得したISO15189:2012認定維持のための品質マネジメントシステム、業務プロセスと手順、臨床検査情報システム、安全衛生（感染を含む）、倫理、患者情報の守秘義務の6項目について学ぶ
- ・研修の期間・実施回数
年間研修の中から各受講者が選択受講（最低2項目以上）
- ・研修の参加人数
検査部、輸血部、病理部の臨床検査技師48名、ISO15189管理主体およびコンサルタントとなる医師14名

【看護部】

- ・研修の主な内容
新任看護師長・副看護師長・主任看護師管理研修
- ・研修の期間・実施回数
3月8日、3月9日、3月13日
- ・研修の参加人数
新任看護師長、副看護師長、主任看護師 24名/回

- ・研修の主な内容
看護師長研修（キャリアパス・キャリアアンカー、対話力向上、リフレクション）
- ・研修の期間・実施回数
4月21日～1月26日までの期間中 5回
- ・研修の参加人数
看護師長 30名/回

- ・研修の主な内容
主任・副看護師長研修（看護師長不在時の代行業務、リフレクション）
- ・研修の期間・実施回数
6月28日～1月23日までの期間中 2回
- ・研修の参加人数
主任、副看護師長 72名/回

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

【看護部】

- ・研修の主な内容
看護技術トレーニング及びシミュレーショントレーニング
- ・研修の期間・実施回数
4月6日～12月6日の期間中 26回
- ・研修の参加人数
院外施設の新規採用看護師 延べ199名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医学部附属病院長 大嶋 勇成	
管理担当者氏名	総務課長 田中 賢一 医療情報部長 山内 高弘 感染制御部長 岩崎 博道 放射線部長 辻川 哲也	経営企画課長 青池 正幸 医療安全管理部長 森岡 浩一 薬剤部長 後藤 伸之 ME機器管理部長 宇隨 弘泰

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第二項に掲げる	病院日誌	病院部総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		看護記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		検査所見記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
病院の管理及び運営に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第三	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医学研究支援センター
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学研究支援センター
		高度の医療の研修の実績	病院部総務課
		閲覧実績	病院部総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部総務課 病院部医療サービス課
掲げる事項 規則第一条の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

外来診療録は、1患者1ファイル、入院診療録は、1患者1入退院1ファイルでカルテ庫において中央管理している。電子診療録として、1患者1ファイルを医療情報部において管理している。なお、診療録の持ち出しは禁止している。

パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。

パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	財務部経理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器管理部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器管理部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器管理部			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理部	
		監査委員会の設置状況	病院部総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者が有する権限に関する状況	病院部総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院部総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院部総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input checked="" type="radio"/> 2. 現状
閲覧責任者氏名	医学部附属病院長 大嶋 勇成
閲覧担当者氏名	病院部総務課長 田中 賢一
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室
閲覧の手続の概要 1. 諸記録の閲覧の申請を担当部署に行う 2. 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う 3. 所定の場所(主に管理棟会議室)において閲覧	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針 (5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。） (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（○有・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理の指針に関すること (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> (1) 全職員を対象に、令和4年12月7日～令和5年3月31日「特定機能病院における医療安全管理体制」について研修会を行った。（e-learning実施） (2) 全職員を対象に、令和5年1月11日～令和5年3月31日「チーム向上を目的としたTeamSTEPSの適切な理解と実践のために」について研修会を行った。（e-learning実施） 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（○有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り調査・分析を行い、原因を究明している。さらに改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性を確認・検討し、実施状況を検証している。 (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。 (3) 毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。 (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。 (5) 日々院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 (2) 院内感染対策に関する管理体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 感染予防対策の確立に関すること (2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること (3) 感染源の調査に関すること (4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること (5) その他感染対策についての重要事項に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(1) 全職員を対象に、令和4年10月13日～令和5年3月31日「抗菌薬適正使用と感染対策」について研修会を行った。（e-learning 実施） (2) 全職員を対象に、令和4年11月8日～令和5年3月31日「排尿ケア研修会」について研修会を行った。（e-learning 実施） (3) 全職員を対象に、令和4年12月20日～令和5年3月31日「感染症はコロナだけじゃないよ！感染症治療と感染対策の基本」について研修会を行った。（e-learning 実施）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 感染症発生状況は、感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度1ヶ月間で全病棟、患者に侵襲的な手術・検査を行う部署は2カ月で全部署を院内巡回し、現場確認を行っている。なお、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。 (2) 感染制御部員が実施場所を決め、ラウンドを実施している。 (3) 部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。 (4) ICNが日々細菌室情報をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。 (5) 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたASTが検査データや抗菌薬使用状況を確認し、日々、感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック、抗菌薬の適正使用の推進を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	随時 e-Learning
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1. 高齢者における医薬品適正使用について 2. 特定機能病院における医薬品の適応外使用等について 	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医薬品の安全使用のための業務手順書の作成 医薬品の安全使用のための研修の実施 院内の医薬品使用状況の把握並びに安全性情報の収集・評価・必要な情報の周知 未承認薬等の使用の把握と必要性や妥当性に関する検討 未承認薬等の使用に関する情報の共有（院内への情報提供） 	
<p>⑤ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> ○適応外使用事例： <ul style="list-style-type: none"> キイトルーダ点滴静注を卵巣癌再発の治療として使用 カフェイン水和物を13トリソミーの児における中枢性無呼吸発作に対して使用 ○未承認新規医薬品： <ul style="list-style-type: none"> 3, 4ジアミノピリジン（試薬）を散剤（院内製剤）として調製したものをLambert Eaton筋無力症候群の治療として使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> PMDAメディナビ、SAFE-DI（商用データベースサービス）を活用した情報収集 医薬品使用状況の把握と適正使用推進を目的とした調査薬品レポートの活用 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 96 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項 ・ 医療機器の安全方法に関する事項 ・ 医療機器の保守点検に関する事項 ・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項 ・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>9品目の医療機器に対して、年間計画を策定し実施している。</p> <p>9品目は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工心肺装置及び補助循環装置 2. 人工呼吸器 3. 血液浄化装置 4. 除細動装置 5. 閉鎖式保育器 6. CTエックス線装置 7. 診療用高エネルギー放射線発生装置 8. 診療用放射線照射装置 9. 磁気共鳴画像診断装置 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <p>なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>収集した安全情報は当該医療機器を使用する部署へ周知（必要に応じて改善処置）を行い、医療機器安全管理部会へ報告している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○・無
<p>・責任者の資格 (○) (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○ (10名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室による国内外の医薬品情報の収集・整理 (PMDA メディナビの活用、SAFE-DI の活用、文献情報等)、調剤時の疑義照会記録のレビュー、あらかじめ定義した医薬品について医師の処方と共に薬剤部に出力されるレポートを活用し状況を確認している。</p> <p>病棟薬剤師からの医局、病棟等カンファレンスにおける情報提供、医薬品情報室による情報提供、さらに必要に応じてリスクマネージャー会議で周知等を行っている。</p> <p>医療安全管理部門カンファレンス並びに医療安全管理パトロールにて、当該周知状況の確認を行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理部会で承認した「使用承認」情報の共有、医局カンファレンス等で病棟薬剤師が知り得た情報の報告、処方薬の適応等に関する確認依頼により、対応が不十分な事例については、医師に対して必要な手続きの依頼を行うなど対応している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (○) (有) ・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (○) (有) ・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月定期的に全身麻酔下手術症例に関する IC 記載について遵守状況を確認している。 医療者側・患者側の同席者、患者家族の説明時の反応をカルテに記載するように指導している。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>日々診療録等の記載内容の確認を行っている。確認の結果指導が必要と判断された事項については、確認実施者から直接当該記録の記載者に連絡し、指導している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 16 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 5 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 4 ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務 ・ 報告されたオカレンスレポートの調査・分析 ・ 3b以上のオカレンスが発生した場合の診療録及びインフォームド・コンセントの確認、オカレンス審議委員会で用いられる資料の作成、並びに議事録の作成・保存 ・ オカレンス審議委員会で究明された原因及び改善策等の審議結果についての当該部署への指導 ・ 各部署リスクマネージャーへの支援、連絡調整 ・ 医療安全の確保のための対策の推進 ・ 職員の医療の安全に関する意識の向上の確認 ・ 手術時静脈血栓塞栓予防策実施、中心静脈カテーテル留置における合併症、静脈血栓塞栓予防行為が行われなかった入院患者の静脈血栓塞栓症のモニタリング実施 ・ 院内医療安全パトロールを実施し、医療安全の確認事項シートを用いて職員の医療安全の認識を確認している <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 7 件）、及び許可件数（ 7 件）</p> <p>・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否決定に関すること。 ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供後の確認に関すること。 ・ その他高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。 <p>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）</p>	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（52件）、及び許可件数（50件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否決定に関する事。
 - ・当該未承認新規医薬品等を使用した症例についての確認に関する事。
 - ・その他未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する事。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 265 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 86 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・影響レベル3b以上のオカレンスレポート並びに死亡退院報告は、速やかに病院長に報告している。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、オカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。
 - ・部署リスクマネージャーに対して、オカレンス報告の意義、部門リスクマネージャーの責務について指導している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：大阪公立大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：宮崎大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
令和4年11月7日（月）に実施

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「患者相談窓口」を設置し、患者やその家族からの医療安全に関する相談に適切に応じる体制を確保している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象に、令和4年12月7日～令和5年3月31日「特定機能病院における医療安全管理体制」について研修会を行った。（e-learning実施）

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・管理者：令和5年2月3日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修（継続・6時間）」受講
- ・医療安全管理責任者：令和5年2月9日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修（継続・6時間）」受講
- ・医薬品安全管理責任者：令和5年2月3日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修（継続・6時間）」受講
- ・医療機器安全管理責任者：令和5年2月3日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修（継続・6時間）」受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

品質 ISO に関する審査を、BSI グループジャパン株式会社より半年に一度受審し、認証を継続している。

最初の認証取得日 平成 15 年 9 月 10 日

最新の更新日 令和 3 年 8 月 11 日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

福井大学医学部附属病院ホームページに掲載

・評価を踏まえ講じた措置

3年ごとの更新審査及び半年ごとの継続審査を受審し、提起された改善事項等について随時是正処置を行っている。その中で軽微な不適合として提起された事項に関しては、審査後1ヶ月以内に審査機関に是正処置計画書を提出し、承認を受けた上で是正処置を行っている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理業務に関する知見・経験 <p>医師免許を有する臨床研修等修了医師であり、かつ、特定機能病院における医療安全に関わる業務の経験と患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有している者</p> 2. 病院の管理運営に必要な能力 <p>診療、教育、研究という大学病院のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を有するとともに、多職種で構成される病院職員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う優れたリーダーシップを発揮できる者</p> 3. 病院の経営に必要な能力 <p>医療を取り巻く様々な外的変化に適切に対応し、医学部附属病院の安定的財政基盤を確立して、病院経営を担う能力を有している者</p> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 <p>福井大学医学部附属病院ホームページに掲載</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
安田 年博	福井大学理事	○	病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	有 <input checked="" type="radio"/> 無
松木 健一	福井大学理事		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	有 <input checked="" type="radio"/> 無
藤枝 重治	福井大学医学部長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第2号に基づく役職指定者	有 <input checked="" type="radio"/> 無

定 清直	福井大学医学科 (共通系・基礎系) 教授		病院長候補者選考会議細則 第3条第1項第3号に基づ き選出	有 <input checked="" type="radio"/> 無
山内 高弘	福井大学医学科 (臨床系)教授		病院長候補者選考会議細則 第3条第1項第4号に基づ き選出	有 <input checked="" type="radio"/> 無
長谷川 美香	福井大学看護学科 教授		病院長候補者選考会議細則 第3条第1項第5号に基づ き選出	有 <input checked="" type="radio"/> 無
五十嵐 行江	福井大学看護部長		病院長候補者選考会議細則 第3条第1項第6号に基づ く役職指定者	有 <input checked="" type="radio"/> 無
池端 幸彦	福井県医師会長		病院長候補者選考会議細則 第3条第1項第7号に基づ き学長が委嘱する学外の有 識者 (医学・医療について豊富な 経験と高い識見を有する者)	有 <input checked="" type="radio"/> 無
吉田 真士	株式会社福井新聞 社 代表取締役社長		病院長候補者選考会議細則 第3条第1項第7号に基づ き学長が委嘱する学外の有 識者 (福井県の諸事情や課題等 に精通し、報道関係者とし て、豊富な経験と高い識見を 有する者)	有 <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院に関する規則等、決算及び予算配分、経営方針、概算要求事項、診療教授等の称号付与 ・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は構成員及び陪席者から、所属職員等に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 福井大学規則集 (公開用) ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大嶋 勇成	○	医師	病院長
山内 高弘 ほか30名		医師	診療科長等
後藤 伸之		薬剤師	薬剤部長
五十嵐 行江		看護師	看護部長
安岡 浩憲		事務職員	病院部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
福井大学規程集（公開用）ホームページ掲載
- ・ 規程の主な内容
 - 福井大学医学部附属病院規程
第3条2項 病院長は、病院の管理運営をつかさどり、所属職員を監督する。
 - 福井大学医学部附属病院副病院長に関する要項
第4条 副病院長は、病院運営委員会の構成員の中から病院長が指名し、
学長が任命する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長の職務を補佐する。
副病院長の担当：医療安全、教育、研究、診療、経営、看護
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（2022.12.07 主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の業務状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。 ・ 必要に応じて、監査の結果に基づき、病院長に対し医療安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。 ・ 監査結果及び意見表明を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法： <p style="margin-left: 40px;">福井大学医学部附属病院ホームページに掲載</p> 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
谷内江 昭宏	金沢大学附属 病院医療安全管理部長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
安川 繁博	福井県医師会 副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ法律事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
草桶 秀夫	前福井工業大学教授		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部統制システム運用規則に基づき、内部統制システムの整備及び運用を推進し、その状況を把握し、重大な問題が発生した場合又は発生のおそれがある場合には、必要な緊急措置及び是正措置を執る。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

福井大学規則集（公開用）ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> (役員会) <ul style="list-style-type: none"> 毎回、病院長が出席し、病院の経営状況や病院の取組等を説明している。 (病院運営諮問会議) <ul style="list-style-type: none"> 病院長の諮問に応じて、経営等に関する病院運営の重要事項、病院の診療、教育及び研究に関する重要事項について審議し、病院長に対して助言又は勧告を行う。 ・ 会議体の実施状況（役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無） <ul style="list-style-type: none"> （役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 福井大学規則集（公開用）ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：福井大学医学部附属病院運営諮問会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
安田 年博	福井大学理事	○	
相田 俊夫	大原記念倉敷中央医療機構 理事・相談役		有 <input checked="" type="radio"/> 無
池内 昭彦	福井放送株式会社 代表取締役社長		<input checked="" type="radio"/> 有・無
池端 幸彦	福井県医師会長		有 <input checked="" type="radio"/> 無
川田 達男	セーレン株式会社 代表取締役会長 兼 最高経営責任者		<input checked="" type="radio"/> 有・無
高山 一夫	京都橘大学経済学部 教授		有 <input checked="" type="radio"/> 無
林 篤志	富山大学附属病院 病院長		有 <input checked="" type="radio"/> 無
松村 理司	洛和会ヘルスケアシステム 洛和会本部 参与 兼 学校法人 洛和学園 洛和会京都厚生学校 学校長		有 <input checked="" type="radio"/> 無
山口 明夫	福井医療大学 学長		有 <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 必修研修会で周知している。オカレンス報告システムのトップページに、情報提供受付窓口を掲載している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院公式ホームページの公開2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域医療機関等への配布（2回/年）、病院内での配布（随時）3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配付（1回/年）4. 福井街角放送による「福大病院まちかどラジオ」の番組内（約10分）で病院スタッフが医療情報を発信（2回/月）5. 地域医療連携部看護師、ソーシャルワーカーが、各診療科における得意な診療のリーフレット等を持参して、福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を訪問し、本院の情報提供を行っている。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により直接訪問できなかった連携保険医療機関については、テレビ会議システム（ZOOM）を用いた連携を行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ol style="list-style-type: none">1. がん診療推進センター（各診療科）がんサージカルボードの実施2. 歯科の周術期における口腔機能の管理（歯科口腔外科と各診療科）3. 精神障害者における身体合併症の管理（神経科精神科と各診療科）4. 脊椎脊髄外科ユニット外来の設置（脳神経外科と整形外科）5. 小児外科の設置（消化器外科と小児科）6. フットケアチームの設置（形成外科、心臓血管外科、リハビリテーション部など）	